

京都議定書目標達成計画の骨子

目指す方向

- 京都議定書の6%削減約束の確実な達成
- 地球規模での温室効果ガスの長期的・継続的な排出削減

基本的考え方

- 環境と経済の両立
- 技術革新の促進
- すべての主体の参加・連携の促進(国民運動、情報共有)
- 多様な政策手段の活用
- 評価・見直しプロセスの重視
- 国際的連携の確保

温室効果ガスの排出抑制・吸収の量の目標 (※)

区 分	目 標		2010 年度現状対策ケース (目標に比べ+12%*) からの削減量 ※2002 年度実績(+13.6%)から経済成長等による増、現行対策の継続による削減を見込んだ 2010 年見込み
	2010 年度 排出量 (百万t-CO2)	1990 年度比 (基準年総排出量比)	
①エネルギー起源CO ₂	1,056	+0.6%	▲4.8%
②非エネルギー起源CO ₂	70	▲0.3%	▲0.4%
③メタン	20	▲0.4%	
④一酸化二窒素	34	▲0.5%	▲1.3%
⑤代替フロン等3ガス	51	+0.1%	
森林吸収源	▲48	▲3.9% <small>(※)</small>	(同左) ▲3.9% <small>(※)</small>
京都メカニズム	▲20	▲1.6%*	(同左) ▲1.6%*
合 計	1,163	▲6.0%	▲1.2%

*削減目標(▲6%)と国内対策(排出削減、吸収源対策)の差分

(※) 温室効果ガス排出・吸収目録の精査により、京都議定書目標達成計画策定時とは基準年(原則1990年)の排出量に変化しているため、今後、精査、見直しが必要。

目標達成のための対策と施策

1. 温室効果ガスごとの対策・施策

(1) 温室効果ガス排出削減

① エネルギー起源CO₂

- ・技術革新の成果を活用した「エネルギー関連機器の対策」「事業所など施設・主体単位の対策」
- ・「都市・地域の構造や公共交通インフラを含む社会経済システムを省CO₂型に変革する対策」

② 非エネルギー起源CO₂

- ・混合セメントの利用拡大 等

③ メタン

- ・廃棄物の最終処分量の削減 等

④ 一酸化二窒素

- ・下水汚泥焼却施設等における燃焼の高度化 等

⑤ 代替フロン等3ガス

- ・産業界の計画的な取組、代替物質等の開発 等

(2) 森林吸収源

- ・健全な森林の整備、国民参加の森林づくり 等

(3) 京都メカニズム

- ・海外における排出削減等事業を推進

2. 横断的施策

- 排出量の算定・報告・公表制度
- 事業活動における環境への配慮の促進
- 国民運動の展開
- 公的機関の率先的取組
- サマータイム
- ポリシーミックスの活用(・環境税・国内排出量取引制度 等)

3. 基盤的施策

- 排出量・吸収量の算定体制の整備
- 技術開発、調査研究の推進
- 国際的連携の確保、国際協力の推進

推進体制等

- 毎年の施策の進捗状況等の点検、2007年度の計画の定量的な評価・見直し
- 地球温暖化対策推進本部を中心とした計画の着実な推進

平成18年10月27日の中央環境審議会から評価・見直しを開始